

・ 諮問事項

水災時において消防団員が効果的に活動する方策はいかにあるべきか

・ 諮問の趣旨

地域に密着した消防団は、平常時において消火活動をはじめ防火防災訓練指導など献身的な活動をしており、水災時の活動においても大いに期待されている。
近年、気候変動等の影響により、超大型台風や局地的豪雨による自然災害が発生しており、令和元年10月に発生した台風第19号では、多くの消防団員が水災事象に対応し、避難誘導、土のうを活用した浸水防止活動及び排水活動などに従事した。

・ 審議内容

水災時において消防団員が効果的に活動するための具体的な方策について審議する。

- 1 活動体制
- 2 装備資機材・分団本部施設

・ 課題

活動体制

- 1 災害状況等に応じた招集及び任務班の編成時期
 - ・ 居住地団員の参集が早過ぎるなど、地域特性や災害状況に応じた招集及び任務班の編成時期について、現員数を考慮した検討が必要である。
- 2 水災活動時の教育訓練及び安全管理
 - ・ 風水害時の災害対応の知識・技術の習得が必要である。
- 3 河川越水等による浸水時の機能移転計画
 - ・ 浸水想定区域内にある分団本部機能維持のための計画（機能移転、活動団員の退避時期など）が必要である。
- 4 広範囲の浸水などの長時間活動に備えた応援体制の構築
 - ・ 災害発生状況、規模に差異があり隣接消防団での応援体制の検討が必要である。
- 5 情報収集体制の強化
 - ・ 団本部と分団本部間での情報共有方法や情報収集環境の整備が必要である。
- 6 住民等からの避難所支援の要請対応
 - ・ 避難所から避難者の移動要請に対応できる体制の検討が必要である。
 - ・ 避難所の支援に対応できる体制の検討が必要である。

装備資機材・分団本部施設

- 1 予想を超える水災に対する装備資機材の増強
 - ・ 越水、内水による浸水対応資機材（排水資機材・胴長・土のう・水のう等）が不足している。
 - ・ 浸水防止活動時（汚水）の衛生管理資機材が不足している。
 - ・ 夜間対応資機材が不足している。
- 2 分団本部施設の機能向上
 - ・ 感染症対策としてのソーシャルディスタンスの確保や、仮眠用資機材の確保等の機能向上が必要である。